

# 社会科（公民的分野）学習指導案

## 授業の見どころ

県社研では、地域素材の指導を研究しています。昨年に引き続き、「まちづくり」という、生徒にとっては一見遠い存在のようなテーマに対して、町の「都市計画マスタープラン」や住民の願いを調べ、その実現のためには、主体者である住民が「地方自治」にどのように関わっていくことが大切であるかに気づかせていこうとする授業です。

日 時 平成16年11月22日(月) 2校時  
場 所 松橋町立松橋中学校 3年1組教室  
年 組 3年1組37人(男子18人 女子19人)  
指導者 松橋町立松橋中学校 教諭 栗崎 義幸

## 1 題材名 「地方の政治と自治」 ～まちづくりを通して、地方自治への関わり方を考えよう～

## 2 題材について

(1) 民主主義の意義や国民の生活の向上、現代の社会生活について、個人と社会との関わり及び個人と行政との関わりを中心に理解を深めるとともに、諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てるために重要な題材である。ここでは、自分たちの住む町をどうしていきたいかに関心をもち、資料を適切に収集し考察して、事実を正確にとらえ公正に判断する能力と、意欲的に今後のまちづくりに参画しようとする態度を育てたい。

松橋町は熊本県のほぼ中央に位置し、町の西部をJR鹿児島本線が、中央部を国道3号が南北に貫通している。また、宮崎県延岡市に通じる国道218号や天草に通じる国道266号が東西に延び、さらには、九州自動車道の松橋インターもある。このように、交通の要所となっているため、古くから宇城地区の中心として各種官公庁等の出先機関も集中し、さらには、熊本、八代両市から約20km内外の距離にあるため、近年は住宅地としての開発がめざましい町である。その松橋町も来年1月15日をもって、宇城4町と合併し「宇城市」となるが、松橋町にとって(生徒にとっても校区が変わるわけでもなく)これといった大きな変化はないように思われる。

町には将来を見据えた「都市計画マスタープラン」があり、各小学校区毎に整備方針がまとめられている。生徒にとって初めて見るそのプランは、どのようなねらいや方法で作成され、まとめであるかについて調べるとともに、地域住民の「まちづくり」の願いや活動についても調べ、両者を比較して考えてみたい。

地方自治は、住民の最も身近で切実な願いを実現させていくためのシステムであるべきだが、現実には住民の願いと実際の政治の内容には「ずれ」が起こることがある。その原因としては、個々の住民の価値観が多様化していることや、市町村の政治が国や都道府県の方針に規定されていることなどがあると思われる。そのことが「任せておけば大丈夫」という信頼の反面「どうせ、自分が言っても変わらないだろう」というあきらめや無関心にもつながっていると考えている。

この学習を通して、松橋町の課題や将来について考え展望をもち、地域住民の願いを実現していく知識や方法を学び、進んで地方自治に関わっていくことの大切さを知ることができると思う。

(2) 小学校からの系統性は次のようになっている。

第3学年(3・4年上):	「わたしのまち みんなのまち」
第4学年(3・4年下):	「わたしたちの県」
第5学年	:「わたしたちの国土と環境」
第6学年	:「わたしたちの生活と政治」

中学校及び本校の総合的な学習との系統性

第1学年(地理的分野):	「都道府県の調査」岩手県、福岡県、東京都、熊本県、松橋町
第3学年(総合的な学習):	「ふるさと松橋」

(3) 本学級は、男子18名女子19名、計37名である。学習に対する意欲は高いが、発表となると消極的な面が見られ、友だちの発表を聞いて「自分と同じだ。」と、納得してしまうところがある。また自分の考えを分かりやすく伝えることが苦手な生徒が数名いる。

・アンケート

社会科は好きか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好き(どちらかといえば好きも含む) 9人</li> <li>・普通 16人</li> <li>・嫌い(どちらかといえば嫌いも含む) 12人</li> </ul>
社会科を好きな理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史上の人物が好きだから。</li> <li>・覚えたことがテレビなどに出てくるから など</li> </ul>
社会科を嫌いな理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・覚えることが多く面倒くさい、が圧倒的に多い。</li> <li>社会科を暗記科目ととらえ、あまり楽しいものと考えていない傾向がある。</li> </ul>
松橋町の好きなおところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花や自然が多いところ</li> <li>・福祉がゆきとどいているところ など</li> </ul>
将来の松橋町の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全であってほしい</li> <li>・自然が豊かであってほしい</li> <li>・にぎやかに発展してほしい など</li> </ul> <p>地域の生活が住民の手で守られてきたことや、現在も町と協力して、より豊かな町づくりが進められていることは意識にないと思われる。</p>

・クラスの校區別生徒数

	松橋	当尾	豊福	豊川
生徒数	10	9	13	5
旧住民	5	3	6	5
新住民	5	6	7	0

旧住民...祖父母の代から現在の場所に住んでいる。

新住民...父母の代から現在の場所に住み始めた。

(4) そこで本題材の指導にあたっては、より積極的に活動できるようにするために、小学校校区ごとの少人数グループを編成する。そして、聞き取り調査やアンケート調査により住民の地域に対する願いを調べるとともに、町の「都市計画マスタープラン」についても調べ、地域住民の願いとプランに「ずれ」があることに気づかせていく。また、その「ずれ」は、住民の願いとは別の次元、つまり、国や県の方針によって引き起こされているということに気づかせ、願いの実現のためには、住民としての権利を積極的に行使していくことが必要であることを理解させるとともに、「まちづくり」に意欲的に関わり願いを実現させていこうとする態度を育成したい。

### 3 題材の目標

(1) 松橋町の将来像やまちづくりに関心を持ち、その方向性を意欲的に追究できる。	社会的事象への関心・意欲・態度
(2) 町の都市計画マスタープランと地域住民の考えの「ずれ」に気づき、自分たちの願いの実現のために、住民の権利を行使していくことが大切であることが分かる。	社会的な思考・判断
(3) 松橋町の将来像や「まちづくり」について、様々な情報（アンケートの結果や町の都市計画マスタープラン）などの情報を適切に選択し、まとめ、発表できる。	資料活用の技能・表現
(4) 地方自治の基本的な考え方や、住民の願いをもとにした「まちづくり」の重要性について理解することができる。	社会的事象についての知識・理解

### 4 題材の指導計画（5時間扱い）

次	題 材	主 な 学 習 内 容	配 当
1	わたしたちと地方自治	地方自治の意味と役割について理解する。地方自治のしくみを、地方議会と首長の役割を中心に理解する。	1時間
2	地方分権と住民参加	新聞などの資料を活用して地方分権の働きについて調べ、発表する。	1
3	「まちづくり」を調べる	自分が住んでいる地域には地域をよくするためにどのような活動が行われているか調べて、地域住民はどのような願いを持っているのか考える。	1
4	「まちづくり」を考える	松橋町が考えている都市計画マスタープランと、地域住民の願いを比較する中で、自分たちの願いを実現する方法を知り、進んで地方自治に関わっていくことの大切さを知る。	1本時
5	わたしたちと日本の政治	現代政治にはどのような課題があるか気づく。	1

### 5 題材における基礎・基本

	基 礎	基 本
「社会的資質」 (社会的事象への 関心・意欲・態度)	「まちづくり」について関心を持ち、積極的に調べようとしている。	「まちづくり」について知り、地域の将来像について、意欲的に調べ、発表や提案をすることができる。
「社会的な思考・判断」	資料をもとに、「まちづくり」を考察し、住民の願いがどのようにしてかなえられるのか、または、かなえられないのか考える。	「まちづくり」について、様々な資料をもとに、多面的・多角的に考え、自分にできることを考えることができる。
「社会的な探求の仕方」 (資料活用の技能・表現)	地域住民の願いなどについて、聞き取り調査やアンケート調査等の結果を、自分なりに適切に活用できる。	聞き取り調査やアンケート調査等から、地域に関する願いを適切に選択し、自分の考えに生かし、まとめたり、発表したり、総合的に活用できる。
「社会的知識」 (社会的事象についての 知識・理解)	地域の将来の「まちづくり」について、行政の考えや住民の願いを理解することができる。	地域住民の願いを、町の都市計画マスタープランと比較し、今後の実現の方法等について理解する。

6 本時の学習

(1) 目標

地域住民の「まちづくり」に対する期待は多様であることに気づくとともに、行政の都市計画マスタープランとは「ずれ」があることを理解する。

「まちづくり」は、国や県の方針に規定されることがあり、自分たちの願いを実現するためには、住民の権利（直接請求権など）を行使していくことも必要であることを理解する。

(2) 展開

学習活動	時間	教師の支援	教材・教具等
1 前時までに調べた「まちづくり」に対する住民の願いや、自分たちの思いを確認する。	5分	地域住民の思いを整理し、具体的にイメージさせる。 町の都市計画マスタープランにはない伝統的な行事や独自の活動が行われ、子どもを育てる手段にもなっていることを確認する。 住民の願いは必ずしも一つではなく、様々な思いがあることを確認する。	白地図(松橋町)表(住民の願い)フラッシュカード
2 町でつくられている都市計画マスタープランと住民の願いを比較し、発表する。	15分	校区ごとに重点目標を抜き出し、住民や自分たちの願いと比較させる。 共通する点や「ずれ」に着目させる。 願いがかなえられていない点があることに気づかせる。	フラッシュカード
なぜ、町の都市計画と住民の「まちづくり」に対する願いには「ずれ」があるのだろうか？			
3 「まちづくり」に対する両者の意識について考える。	10分  5分	町の都市計画マスタープランの作成方法について考えさせる。 町民全体の願いをかなえることができないのはどうしてか考えさせる。 分からないことは役場の方に質問するように促し、返答をもらう。 合併を控えて、町の都市計画マスタープランの見直しが行われることを話してもらう。	ゲストティーチャー
願いを実現するために「まちづくり」にどのように関わることができるか考えよう。			
4 役場の方から、都市計画マスタープランについて聞く。 (都市計画審議委員会・公聴会・意見書など)	10分	「まちづくり」実現のためには、国や県の政治にも目を向けていく必要があることに気づかせる。 選挙権や直接請求権などの権利を積極的に活用することの大切さを理解させる。	学習シート
5 自分たちの願いを実現させるための方法を考える。	5分	町政だけでなく県政や国政にも関心を持つことが大切であることを話す。	
6 教師の話を聞く			